教材文を自ら進んで読み取ることができる児童の育成
―通常学級の国語科における「ことばの体操タイム」と教材文提示の工夫を通して―

特別研修員　特別支援教育　石塚愛子（小学校教諭）

【児童の実態】

「読書は好きだけど…」
「文章が長くてよくわからない」
「大事なところが見つからない」

・説明的文章の読み取りに苦手意識をもっている。
・拗音や拗長音の読みにつまずきのある児童がいる。

【教師の思い】

・「読むこと」に対する抵抗感や苦手意識を取り除きたい。
・進んで読もうとする意欲を高めるために、読み取りに必要な基礎的な力を高めたい。

【目指す児童像】教材文を自ら進んで読み取ることができる児童

授業実践　単元名「説明のしかたの工夫を見つけ、話し合おう」

（本時は「天気を予想する」の二のまとまり（④～⑥段落）を読み、読み手を納得させる説明のしかたの工夫をさがす学習）

【手立て１】「ことばの体操タイム」の設定

○「読むこと」への抵抗感を取り除くために、授業の始まりの５分間を**「ことばの体操タイム」**とする。語句のまとまりを一目で捉えて理解したり語彙を増やしたりして、文章の読み取りに必要な基礎的な力が高まるように、ゲーム感覚で楽しみながら取り組める活動を設定する。

目のキョロキョロ体操
（視覚機能の向上）

漢字フラッシュカード
（新出熟語の読みの定着）

本文早読みチャレンジ
（文字を追うスピードの向上）

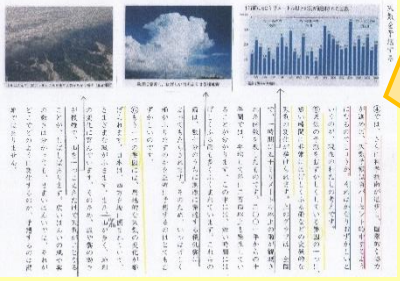
・**言葉当てクイズ**
（新出熟語の意味の理解）

・**言葉集め**
・**早口言葉**
・**言葉づくり**
（拗音・拗長音の理解、語彙を増やす）

学習指導モデル（多層指導モデルMIM）によるアセスメントと評価

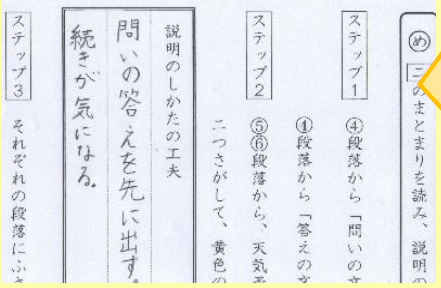
【手立て２】教材文提示の工夫

○長い教材文を内容のまとまりごとに**短く区切って**提示する。



本時に読み取る部分だけを１枚のシートで提示し、読むことへの抵抗感を取り除くことができるようにした。

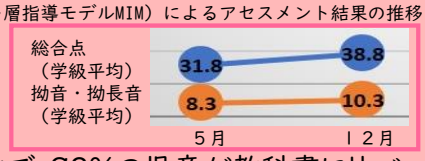
○**読み取りの視点**を明確にする。
○読み取りの手順を**ステップ**として示したワークシートを活用する。



読み取りの視点を「問い」・「答え」・「要因」、「文章と資料」に絞ることで、何を、どんな順番で読み取ったらよいのかが分かるようにした。

【○成果と●課題】

学習指導モデル（多層指導モデルMIM）によるアセスメント結果の推移



○「ことばの体操タイム」を取り入れたことで、語句を一目で捉えるスピードが向上した。また、教材文を読み取る際にも熟語の読みや意味が分かり、進んで読もうとする意欲の向上につながった。
○長い教材文を内容のまとまりごとに短く分けた１枚のシートで提示したことで、92%の児童が教科書に比べ「読み取りやすくなった」と答えた。また、「文章を読み取ること」に苦手意識をもっていた児童が43%から24%に 減少した。
●今後も「読めた」という実感がもてるように、学習の振り返りの際の自己評価を工夫する。